

重点目標	項目	具体的取組	担当	現 状	評 価 法	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	調査対象調査時期	達成度	判定	次年度へ向けての改善点など
1	① 指導力向上	研究の重点を意識し、日々の授業に取り組むために、毎週週案でふりかえりをし、意識付けを図る	北川	△研究の重点「考え続けたい授業づくり」では、「まなびいず」を生かし、児童が主体的に学び、考え続けたい授業になるように意識した取り組みを重ね、広げてく必要がある	満足	S:授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月	%		
					努力	T:研究の重点「考え続けたい授業づくり」を意識して授業を構築している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	%		
	② 学力向上	学力向上ロードマップを実働化させ、学力調査等の検証をもとにした授業改善を行うために、学年会などで毎月ふりかえりをし、意識付けを図る	北川	○学力向上部のチームリーダーが主となり、連携してロードマップの実働化を図ることができている △学力調査等の検証を学力向上プランに生かし、組織的に授業改善を進めているが、徹底することができていない	成果	S:国語科・算数科の学期末テストの平均点。	4:全国平均+3点以上 3:全国平均以上+3点未満 2:全国平均-5点以上平均点未満 1:全国平均-5点未満	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月	%		
					努力	T:学力向上プランをもとに授業改善を図っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	%		
	③ 豊かな読書習慣	学年に応じた読書活動ができるように、毎月、学年ごとに量・質・深さを高めるためのワークシートに取り組み、月末にふり返りをする	高澤	○全体的に読書を好んでいる児童が多い △図書室へ足を運ばない児童もあり、読書量の個人差が大きい △個々の選書に偏りがあり、幅広い読書になっていない △絵を見ているだけだったり、はじめを少し読んでいただけだったりなど、読書の仕方が浅い	成果	S:読書の量・質・深さが高まっている。	4:クラス全員 3:クラス2/3以上 2:クラス半分以上2/3未満 1:クラス半以下	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 月末 集計7・12月	%		
					成果	T:朝読書の取り組みを行っている。	3:2回以上/月 2:1回/月 1:0回/月	○3+2が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	学級担任 月末 集計7・12月	%		
2	④ 英語能力の育成 環境の整備の推進とICT	・子どもたちが楽しめる学習活動について終礼や研修で伝える ・アシスタントとの打ち合わせを学年で情報交換したり、指導法について考える時間を設定する	諸江	○昨年度後期で、96%の児童が楽しいと感じていた △教科化に対応しながら、英語嫌いを作らないような指導をしていく必要がある	成果	S:外国語活動に楽しく参加できている。	4:とても楽しい 3:楽しい 2:あまり楽しくない 1:楽しくない	○4+3が A:95%以上 B:90%以上95%未満 C:85%以上90%未満 D:85%未満	全児童 7・12月	%		
					努力	T:英語アシスタントと連携し、言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養う指導をしている。	4:よく取り組んでいる 3:取り組んでいる 2:あまり取り組んでいない 1:取り組んでいない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	%		
	⑤ ICT活用	・研修と、その強化週間を設ける ・ICT機器の操作が苦手な教員には個別にミニ研修を行う	土田	○△活用する職員は増えているが、そうでない教員もいる △仮校舎のICT環境は悪い △苦手な職員への個別研修が必要である	努力	T:ICT機器を活用した授業を行っている。	4:よく取り組んでいる 3:取り組んでいる 2:あまり取り組んでいない 1:取り組んでいない	A+Bが A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月	%		
いじめ・不登校や問題行動の未然防	⑥ 自己肯定感育成	・調査や面談の結果を生かし、月に一度は、自己肯定感の低い子の支援方法についての協議の場を設定する ・ソーシャルスキルトレーニングを紹介し、取組週間を設ける ・キャリア教育について理解を深める研修を行い授業や褒める実践に繋げる ・情報交換タイムを設け、児童理解を深め子ども達の良さを積極的に伝えられるようにする ・児童会でよいとこ見つけの取組を考え、児童主体で取り組む	諸江	△昨年度後期で、91%の子ども・94%の保護者が学校へ行くのが楽しいと感じていた △昨年度後期で、88%の子ども・80%の保護者が将来の夢や目標をもっていると感じていた △昨年度後期で、85%の子どもが自分には良いところがあると感じていた △生徒指導の3機能を生かした授業を行い、その様子をHPや生徒指導便りで伝えていくことで、自己肯定感や自己有用感を高めていく必要がある	成果	S:学校に行くのは楽しい。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全児童 7・12月 (市1)	%		
					成果	P:子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全保護者 7・12月 (市1)	%		
					成果	S:将来の夢や目標をもっている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月 (市3)	%		
					成果	S:自分には良いところがあると思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月 (市6)	%		

3	止と心の教育・特別支援教育の充実	⑦ いじめ対応充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針と具体的な取組を共通理解する 児童会を活躍させるなど、児童主体でいじめ防止活動に取り組む いじめに関する学校の様子や取組をHPや生徒指導便りや積極的に伝え、家庭と連携する 個人カードの記入期間を行事予定表に明記し、やりきるよう声かけをする 児童の情報を共有するため週2回の終礼を使う 	諸江	<p>○昨年度後期、100%の子がいじめはどんな理由があったと聞いていないと感じている</p> <p>△昨年度後期で、84%の保護者が学校はいじめに関する取組を伝えていて感じている</p> <p>○昨年度後期、100%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている</p>	<p>成果</p> <p>S:いじめはどんな理由があったと聞いていないと思う</p> <p>成果</p> <p>P:学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。</p> <p>努力</p> <p>T:いじめに関する取組(個人カード全員記入・情報交換タイムでの発信)や指導を行っている。</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p> <p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p> <p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p> <p>○4+3が</p> <p>A:90%以上</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p> <p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p>	<p>全児童</p> <p>7・12月</p> <p>(市7)</p> <p>%</p> <p>全保護者</p> <p>7・12月</p> <p>(市7)</p> <p>%</p> <p>全教員</p> <p>7・12月</p> <p>%</p>		
		⑧ 特実教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 共通実践体制の整備[SCの記録Fileの回覧、終礼での児童理解の深化] OJTの充実[児童や保護者の対応、エンカウンター紹介、ケースカンファレンス] 	燈明	<p>△SCの情報共有等に課題がある</p> <p>○学年会やブロックでの児童理解の会、終礼での報告</p> <p>○児童理解やエンカウンターOJTを行った</p>	<p>努力</p> <p>T:学期に2回以上、気になる児童についてのケースカンファレンスを行い全職員が児童の状況との理解を深め、具体的支援策を考える。</p>	<p>○実施回数</p> <p>A:3回以上</p> <p>B:2回</p> <p>C:1回</p> <p>D:0回</p>	<p>担当教諭</p> <p>学期ごと</p> <p>%</p>			
4	児童生徒の体力・運動能力の向上と食育の推進	⑨ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> 月1回(年12回)の体育便りや、家庭でも運動する意識を高める 実技講習や準備運動例の提示により取組への全教員の指導力を高める 休み時間等、体育以外での「スポチャレいしかわ」の取組を推進していく 	清水	<p>○昨年度は、スポチャレいしかわに頑張っている児童は97%であり、体育の授業が楽しいと感じている児童は95%と高い</p> <p>△体育を除く運動実施時間1時間未満の児童は42%(内30分未満19%)であり、運動は楽しいと感じているもの、運動に進んで取り組む児童が少ない</p>	<p>満足</p> <p>学校や家で、運動に取り組んでいる。(体育を除く)</p> <p>努力</p> <p>S:スポチャレいしかわに取り組んでいる(月3回以上)</p> <p>1:取り組んでいない</p>	<p>4:よく取り組んでいる</p> <p>3:取り組んでいる</p> <p>2:あまり取り組んでいない</p> <p>1:取り組んでいない</p> <p>4:よく取り組んでいる(月4回以上)</p> <p>3:取り組んでいる(月3回)</p> <p>2:あまり取り組んでいない(月1~2回)</p> <p>1:取り組んでいない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:90%以上</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p> <p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p>	<p>全児童</p> <p>8・12月</p> <p>%</p> <p>全教員</p> <p>8・12月</p> <p>%</p>		
		⑩ 健康安全な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 学期初めの生活調査は学担と連携して指導する むし歯のある児童に個別指導を実施する 保健だよりや学校保健委員会等を通じて、積極的に家庭を啓発する 生活が乱れている児童について、保護者との相談の機会を持つ 給食時は机上に歯ブラシ用意、「いただきます」時に歯ブラシ確認等、学担との連携を強化し、昼食後の歯みがきを徹底する 	松田	<p>△昨年度は、95%前後が朝食を食べていると回答しており、ほとんどの児童が朝食を食べていると言える。しかし、朝食のバランスについては、「ヨーグルトのみ」「菓子パンのみ」など課題がある児童がいる</p> <p>△昨年度の生活調査でメディアルールが守れていない児童は10%あり、メディア時間の長さやそれに関連して就寝時刻の遅さが課題である。また、ゲーム等に起因したトラブルが増えている</p>	<p>成果</p> <p>S:毎日、朝ご飯を食べている。</p> <p>努力</p> <p>P:子どもは、朝食を毎日食べている。</p> <p>成果</p> <p>S:1日(平日)のメール・ネット(ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)の平均時間</p>	<p>4:毎日食べる</p> <p>3:一週間に1日食べない</p> <p>2:一週間に2、3日食べない</p> <p>1:ほとんど食べない</p> <p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:全くあてはまらない</p> <p>4:1時間未満</p> <p>3:1時間以上2時間未満</p> <p>2:2時間以上3時間未満</p> <p>1:3時間以上</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:99%以上</p> <p>B:97%以上99%未満</p> <p>C:95%以上97%未満</p> <p>D:95%未満</p> <p>○4+3が</p> <p>A:90%以上</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p> <p>○4+3が</p> <p>A:90%以上</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p>	<p>全児童</p> <p>7・12月</p> <p>(市2)</p> <p>%</p> <p>全保護者</p> <p>7・12月</p> <p>(市2)</p> <p>%</p> <p>全児童</p> <p>7・12月</p> <p>(市5)</p> <p>%</p>		
		⑪ 食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の学年会で、食に関する年間指導計画を確認し、教科や特別活動、給食時の指導体系を確認し、確かな指導に結びつける 	相河	<p>食と、健康、生産、調理等とを関連させて指導しようという意識が弱いため、児童は食事が健康につながっていたり食に対する感謝の気持ちが薄かったりしている</p>	<p>努力</p> <p>T:給食指導年間計画に従って授業活動を進めている。</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p>	<p>全教員</p> <p>7・12月</p> <p>%</p>		
		⑫ 会議・行事の精選	<ul style="list-style-type: none"> 主任との連携を強め、滞りを見つけ改善する 学年会シートの充実 提案は簡潔で分かりやすく行うように事前に確認する 	赤池	<p>○週計画と掲示板との併用による、確実な情報共有</p> <p>△会議の時間短縮のための、簡潔で分かりやすい提案</p>	<p>努力</p> <p>T:子どもと向き合う時間や教材研究する時間を確保するために、会議・行事の精選・効率化に努めている。</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:90%</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p>	<p>全教員</p> <p>7・12月</p> <p>%</p>		
		⑬ カリ・マネ	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な視点でカリキュラムをマネジメントを充実させる 教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を行った 学年会シートで進捗状況を確認する 	赤池	<p>△臨時休業による授業時数確保のため、教科横断的な視点で授業を行う必要がある</p> <p>○学校CNと連携し、外部人材の活用を円滑に進めることができている</p>	<p>成果</p> <p>T:教科横断的な視点でカリキュラムを開発した</p> <p>満足度</p> <p>S:学校の先生以外の人の勉強するのは、ためになる</p>	<p>4:3つ以上</p> <p>3:2つ</p> <p>2:1つ</p> <p>1:なし</p> <p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○4+3が</p> <p>A:100%</p> <p>B:90%以上100%未満</p> <p>C:80%以上90%未満</p> <p>D:80%未満</p> <p>○4が</p> <p>A:90%</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p>	<p>全教員</p> <p>7・12月</p> <p>%</p> <p>全児童</p> <p>7・12月</p> <p>%</p>		
5	教職員の働き方改革の推進	⑭ 外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間のデータ的全職員への提示により、業務の精選や平準化の意識を高める PTA分担表で依頼内容を明確にしたり、便り等で保護者に理解を求めるとして、教職員の働き方改革への理解と協力を得やすくする 	教頭	<p>○職員一人当たりの時間外勤務の月平均は一昨年は47時間、昨年は41時間と減少してきている。また、PTAによる啓発活動や役割分担も少しずつ定着してきている</p> <p>△業務の平準化には依然として課題が残る、80時間を超えた職員も延べ16人いた</p>	<p>成果</p> <p>50時間以上の人数が減らず <参考値> 昨年度4~7月54時間 8~12月44.8時間 1~3月31時間</p> <p>努力</p> <p>P:県や市の方針を理解し、教職員の本務である児童の教育に向き合う時間を確保できるように協力している</p>	<p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p> <p>4:よくあてはまる</p> <p>3:だいたいあてはまる</p> <p>2:あまりあてはまらない</p> <p>1:あてはまらない</p>	<p>○50H以上の人数が</p> <p>A: 2人以下</p> <p>B: 3~5人</p> <p>C: 6~9人</p> <p>D: 10人以上</p> <p>○4+3が</p> <p>A:90%以上</p> <p>B:80%以上90%未満</p> <p>C:70%以上80%未満</p> <p>D:70%未満</p>	<p>時間外勤務調査</p> <p>7・12月</p> <p>%</p> <p>全保護者</p> <p>7・12月</p> <p>%</p>		